

オープンイノベーションによる新製品開発

1. はじめに

近年、IT技術などによる社会の変革が進んだ結果、様々な技術へのアプローチが容易になるとともに、市場での競争の激化やニーズの多様化が進んでいます。

こうした状況に迅速に対応し、市場に満足度の高い新製品を提供するため、自社の技術力だけでなく、これまで接点を有していない外部の企業と積極的に協業して、新たな付加価値を創出するオープンイノベーションに、大きな注目が集まっています。

経済産業省も昨年、「オープンイノベーション白書」を作成し、こうした仕組みを産業界等に広く導入していく方針を示しています。

現在、当地域産業も含め、多くの産業分野で、オープンイノベーションへの取組が顕著になりつつあります。

2. 当センターにおける取組

今年度、当センターでは、愛知県立芸術大学と共同で、産業デザイン試作ネットワーク事業「商品開発のための試作体験セミナー」（全2回）を開催しました。

消費者の関心は、製品の機能から製品を使う喜びへと変化してきており、「機能だけでなく使う人のことを考えた製品デザインによる高付加価値化」が重要になっています。例えば、シンプルな機能を持つプロダクトに、新たなアイデアを加えることで、新たな付加価値を持つ新製品を生み出すことができます。

しかし、特に中小事業者においては、接点の少ない外部企業との協業や工業デザイナーとの接点を持つといった機会を得ることは、必ずしも容易ではない状況にあります。

本セミナーでは、オープンイノベーションによる新製品開発プロセスを疑似的に体験していただくため、参加者を製造系企業とデザイン系企業が一体となった少人数グループに分割し、「製品デザインのためのグループワーク」を実施しました。

外部との協業による開発の初期段階を効率的

に進めるためには、意識的に場を作り、時間を決めて意見を出し合い、実際にやってみる、というプロセスを踏む方法が有効です。

本セミナーの第1回では、愛知県立芸術大学美術学部デザイン専攻・森真弓准教授の指導及び（株）コボの協力の下、具体的なテーマ「〇〇な携帯電話ホルダー」に対して、各グループで課題解決につながる大量のアイデアスケッチを短時間に作成した後、最も良いと考えられる案を選び出し、ウレタンフォームの切削やクレイによる造形などでモックアップを作りました。

第2回では、モックアップ形状をデジタル化し、3Dプリンタで作製した試作品を実際に使用し、「実用性」と「使う喜び」を検証した結果を報告するとともに、（株）コボ代表取締役 山村真一氏による総評及びデザイン講演を行いました。

短期間の行事でしたが、参加者からは興味深い体験ができた等、ご好評をいただきました。



グループワークによる新アイデアの検討



3Dスキャナによるモックアップ形状のデジタル化

図 セミナー風景

3. おわりに

オープンイノベーションを通じた新たなものづくりは、今後も発展と活用の拡大が注目される分野です。

当センターでは、試作支援の観点から、積層造形装置を用いた試作支援をはじめ、形状のデジタルデータ化や造形技術に関する相談に応じております。また、本稿でご紹介した行事をはじめ、新たなものづくりを支援するための取組も進めています。

皆様のご利用をお待ちしております。お気軽にご相談ください。



共同研究支援部 試作評価室 加藤正樹 (0561-76-8316)

研究テーマ：機能性材料、プロセス技術の開発

担当分野：試作評価